

週間市場レポート (2023年2月27日~3月3日)

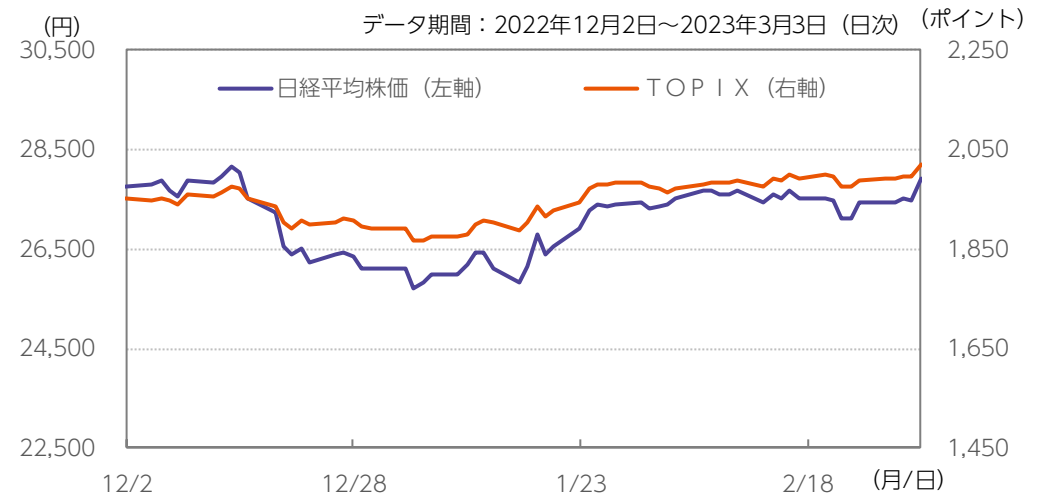
1) 先週の市場動向

| 指数名 | 国 | 前週末 2023/2/24 | 先週末 2023/3/3 | 前週末比 (%) |
|--------------------------------|----|------------------|-----------------|-------------|
| 日経平均株価 (円) | 🇯🇵 | 27,453.48 | 27,927.47 | 1.73 ↗ |
| TOPIX (東証株価指数) | 🇯🇵 | 1,988.40 | 2,019.52 | 1.57 ↗ |
| ダウ工業株30種平均 (ドル) | 🇺🇸 | 32,816.92 | 33,390.97 | 1.75 ↗ |
| S&P500種指数 | 🇺🇸 | 3,970.04 | 4,045.64 | 1.90 ↗ |
| ナスダック総合指数 | 🇺🇸 | 11,394.94 | 11,689.01 | 2.58 ↗ |
| ユーロ・ストックス50指数 | 🇪🇺 | 4,178.82 | 4,294.80 | 2.78 ↗ |
| S&P/ASX300指数 | 🇦🇺 | 7,265.93 | 7,242.16 | ▲0.33 ↘ |
| 上海総合指数 | 🇨🇳 | 3,267.16 | 3,328.39 | 1.87 ↗ |
| MSCI AC アジア (除く日本)* | | 815.30 | 828.75 | 1.65 ↗ |
| 東証REIT指数 | 🇯🇵 | 1,851.48 | 1,825.15 | ▲1.42 ↘ |
| FTSE NAREIT All-Equity REIT 指数 | 🇺🇸 | 734.92 | 744.83 | 1.35 ↗ |
| ASX300 REIT 指数 | 🇦🇺 | 1,454.30 | 1,405.50 | ▲3.36 ↘ |
| グローバルREIT (除く日本)* | | 178.29 | 179.45 | 0.65 ↗ |
| 日本10年国債 (%) | 🇯🇵 | 0.504 | 0.506 | 0.002 ↗ |
| 米国10年国債 (%) | 🇺🇸 | 3.943 | 3.952 | 0.009 ↗ |
| ドイツ10年国債 (%) | 🇩🇪 | 2.537 | 2.715 | 0.178 ↗ |
| 英国10年国債 (%) | 🇬🇧 | 3.659 | 3.849 | 0.190 ↗ |
| ドル/円 | 🇺🇸 | 136.48 | 135.87 | ▲0.45 ↘ |
| ユーロ/円 | 🇪🇺 | 143.84 | 144.68 | 0.58 ↗ |
| 英ポンド/円 | 🇬🇧 | 163.01 | 163.65 | 0.40 ↗ |
| 豪ドル/円 | 🇦🇺 | 91.80 | 91.95 | 0.17 ↗ |
| フィラデルフィア半導体指数 | | 2,935.11 | 3,028.34 | 3.18 ↗ |
| WTI原油先物 (ドル) | | 76.32 | 79.68 | 4.40 ↗ |
| CRB指数 | | 267.15 | 275.05 | 2.96 ↗ |

2) 日本の株式・債券市場

◀ 株式 ▶

日本株式市場 (日経平均株価) は、前週末比で上昇しました。主要企業の2022年10-12月期の決算発表が一巡し、新規の材料が乏しい中、米連邦準備制度理事会 (FRB) の金融政策をめぐる思惑などから、週初より方向感に欠ける展開となりました。週末は、積極的なタカ派 (金融引き締め推進派) として知られるFRB高官が、3月の米連邦公開市場委員会 (FOMC) での0.25%の利上げを支持すると伝わり、利上げ幅を0.5%とすることへの警戒が後退したことや、週末に控える中国全国人民代表大会 (全人代) で景気刺激策が打ち出されるとの期待などから上昇しました。



出所) ブルームバーグのデータをもとにニッセイアセットマネジメント作成
 ※現地通貨ベース * ▲はマイナスを表します。

≪ 債券 ≫

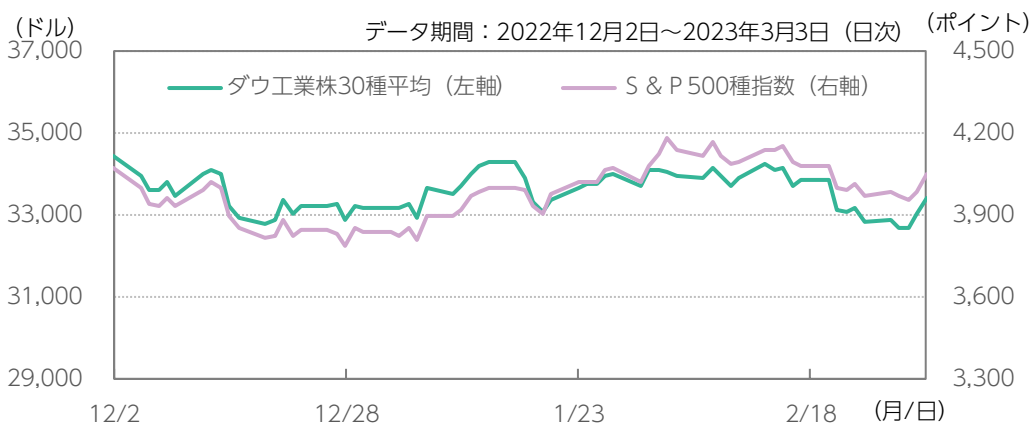
日本債券市場（10年国債金利）は、前週末比で横ばいとなりました。インフレ抑制に向けて米利上げは長期化するとの見方から米長期金利が高止まりし、国内金利にも上昇圧力がかかりました。なお、日銀は5年物の共通担保資金供給オペや連続指値オペの実施により、長期金利の上昇を抑えており、週を通じて日銀が許容する長期金利の変動幅の上限である+0.5%近辺での推移となりました。



3) 米国の株式市場

≪ 株式 ≫

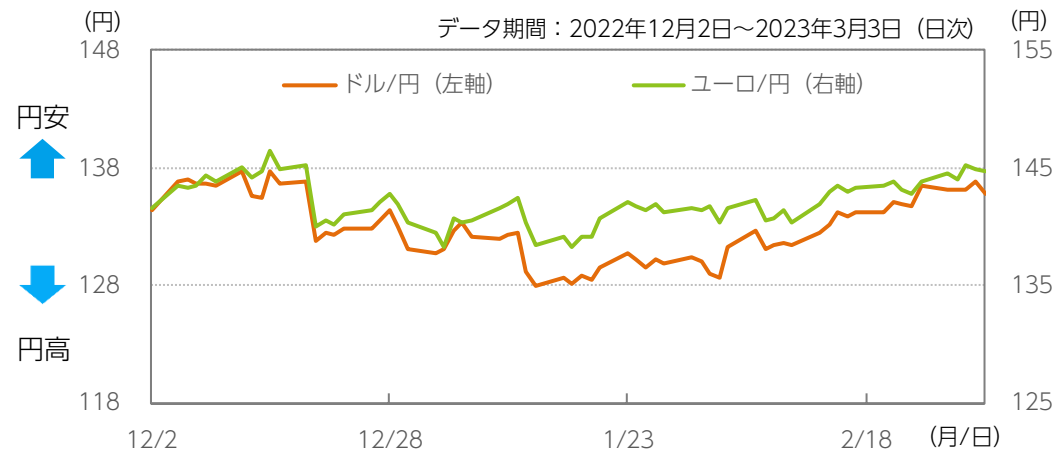
米国株式市場（NYダウ）は、前週末比で上昇しました。FRBの利上げが長期化すると警戒感が強まるなか、米長期金利の動向をにらみながら一進一退となりました。タカ派で知られるアトランタ連銀総裁が、3月FOMCでの0.25%の利上げを支持すると伝わり、週末も一時4.09%まで上昇した米長期金利が3.9%台後半まで低下したことから、割高感が意識されていたハイテク株を中心に買われ、上昇しました。



出所) ブルームバーグのデータをもとにニッセイアセットマネジメント作成

4) 外国為替市場

米ドル/円相場は、前週末比で円高米ドル安となりました。2月のISM製造業景況感指数が市場予想を上回るなど強い経済指標を受け、米国の利上げが長期化するとの見方から円売り米ドル買いが進みました。一時、およそ2ヵ月半ぶりに137円台をつけたものの、週末にかけて、米長期金利の上昇が一服したことや利益確定目的の円買い米ドル売りが進みました。



5) 今週の見通しについて

FRBの金融政策をめぐる思惑から、株式市場はFRB高官の発言や経済指標に一喜一憂する展開が続いています。

2日（木）に発表された新規失業保険申請件数は19万件と、前週（19万2,000件）から減少し、市場予想（19万5,000件）も下回りました。引き続き米労働市場の堅調さが示されたことから、FRBの利上げが継続するとの見方が強まり米債券市場では長期金利が4.0%を超える水準まで上昇しました。今週は週末に日銀金融政策決定会合や、2月の米雇用統計の発表を控え、様子見ムードが強まりそうです。なお、11日（土）よりブラックアウト期間（金融政策に関する発言の禁止期間）に入るため、FRB高官の発言が徐々に控えられとみられ、今後の金融政策の方向性を占う上で、7日（火）のパウエルFRB議長の議会証言に注目が集まるものと思われます。

今週の株式市場も雇用関連の経済指標を確認しながら、慎重に方向感を見極めていくこととなりそうです。

【当資料に関する留意点】

- 当資料は、市場環境に関する情報の提供を目的として、ニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。また、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。実際の投資等に係る最終的な決定はご自身で判断してください。
- 当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 当資料のいかなる内容も将来の市場環境等を保証するものではありません。
- 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料に投資信託のグラフ・数値等が記載される場合、それらはあくまでも過去の実績またはシミュレーションであり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。
- 投資信託は投資する有価証券の価格の変動等により損失を生じるおそれがあります。
- 投資信託の手数料や報酬等の種類ごとの金額及びその合計額については、具体的な商品を勧誘するものではないので、表示することができません。

<設定・運用>



ニッセイアセットマネジメント株式会社

商号等：ニッセイアセットマネジメント株式会社

金融商品取引業者

関東財務局長（金商）第369号

加入協会：一般社団法人投資信託協会

一般社団法人日本投資顧問業協会

ニッセイアセットマネジメント株式会社

コールセンター 0120-762-506

9：00～17：00（土日祝日・年末年始を除く）

ホームページ <https://www.nam.co.jp/>